

# BILANC

ビランク  
vol.34

## 未来のために、 私学とともに

教職員の待遇の安定と向上のため、学校法人の経営を  
支援することにより、広く社会に貢献しています。

デジタルとの  
良いお付き合い

特集  
「ほどほどの距離感」が、長続きの秘訣





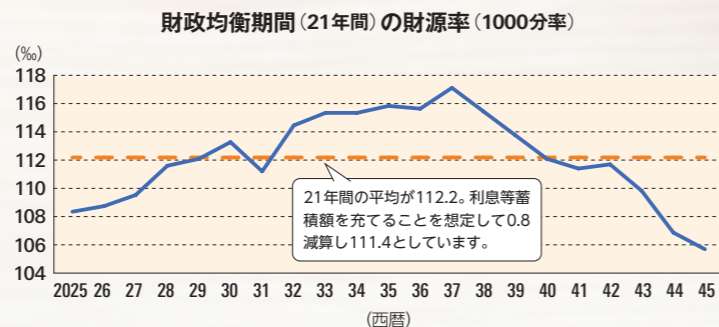
# “未来を支える” 安定・確実な 退職資金交付制度

～2025年度からの掛金率の算定方法が決定しました～

\* 2024年2月の理事会で掛金率の基本方針が決定し、  
6月の理事会で掛金率に関する  
規定（退職資金交付業務方法書等）が改正されました。  
掛金率は3年ごとに見直しが行われ、  
この掛金率は、2025年度から2027年度まで適用されます。

## 事業全体に必要な掛金率

- 退職者に係る退職資金額等を見込むため、2021年度までの登録教職員の実績をもとに予定昇給率、予定退職率の計算基礎を定めました。この際、退職資金及び掛金率の推計計算は、退職給付制度等に関する数理計算を行っているJPアクチュアリーコンサルティング株式会社に委託し、財源率を算出しました。
- 推計計算においては、国家公務員退職手当法の自己都合退職に掛かる退職手当の支給水準を反映した交付率で行い、収支の財政均衡期間を21年間とし、準備資産を退職資金の1年分相当額に近づける措置を講じています。
- 2025年度から2027年度までの掛金率は、1000分の111.4です。
- 維持会員ごとに適用する掛金率は、維持会員ごとの教職員の登録状況等に応じて1000分の111.4を調整して適用します。調整方法はこれまでと大きな変更はありません。



## 維持会員ごとに適用する掛金率

維持会員ごとに適用する掛金率は、「基本掛金率表」を使用し、維持会員が登録している教職員の平均在職年数に応じて掛金率を決定します。

- 基準交付率を選択している場合は基本掛金率表から該当する率を適用します。
- 基準交付率以外の交付率を選択している場合は基本掛金率表で該当する率に次の割合を乗じます（基準交付率よりも多くの財源を要するため）。  
○ 特例交付率の場合 × 1.0062（現行1.0090）  
○ 従前交付率の場合 × 1.0686（現行1.0721）
- なお、収支差額指数が±3を超える場合は上記の掛金率を減算又は加算調整します。この調整方法については、現行の取扱いを維持します。

基本掛金率表（1000分率表示・抜粋）

平均在職年数	改正後	改正前
8.0以上	70.2	70.6
8.5	74.6	75.0
9.0	78.9	79.3
9.5	83.4	83.8
10.0	87.7	88.1
10.5	92.0	92.5
11.0	96.3	96.8
11.5	100.8	101.3
12.0	105.1	105.6
12.5	109.5	110.0
13.0	113.7	114.3
13.5	118.0	118.6
14.0	122.4	123.0
14.5	126.7	127.3
15.0	131.1	131.8
15.5	135.4	136.1
16.0	139.8	140.5
16.5	144.1	144.8
17.0	148.6	149.3
17.5	150.7	151.5
18.0	152.9	153.7



- 2025年度からの掛金率
- 2 “未来を支える”安定・確実な退職資金交付制度
- Officer Message
- 5 教職員が業務に邁進できる環境を  
●大野博之(私立大学退職金財団理事)
- 特集 「ほどほどの距離感」が、長続きの秘訣
- 6 デジタルとの良いお付き合い  
●西多昌規(医師、早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)
- Focus
- 10 理事会・評議員会開催報告
  - ▶ 事業報告
  - ▶ 経常増減額と正味財産
  - ▶ 退職資金交付業務方法書等を一部改正
  - ▶ 新システムの開発
  - ▶ 評議員・役員の就退任
- 新退職資金申請システムのご案内
- 12 時代に合わせて「より便利に」「より使いやすく」
- 連載 大学ミュージアム図鑑②
- 14 住民との交流続く“文化の天守閣”  
●大阪青山歴史文学博物館(大阪青山大学)
- 連載 未来を拓く学校人②①
- 16 地域と連携し、学生の夢を応援！  
キャリア形成支援の新しいカタチ  
●相模女子大学 夢をかなえるセンター
- 連載 Campus Cafeteria Collection⑥
- 19 「音楽の道」のデザイン食堂  
●TCM 学生と街のレストラン(東京音楽大学)
- 20 維持会員通信  
修文学院／東京女子大学／立正大学学園
- 対談 私立大学等の今を聞く
- 22 成長を実感できる短大教育  
●大野博之(国際学院理事長)／守田芳秋(私立大学退職金財団常務理事)



教職員が業務に邁進できる環境を

## Officer Message

私立大学退職金財団理事 **大野博之**

2021年6月、私立大学退職金財団理事に就任いたしました。微力ながら、維持会員をはじめ少しでも皆さまのお役に立てるよう精進いたしますので、今後ともご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

私立大学等が安定した経営を維持でき、勤務する教職員が生活保障によって職務に専念できる環境をつくるのが、本財団の役割の一つです。不透明な社会情勢の中、本財団の役割や存在意義の大きさを改めて実感しています。

コロナ禍は私学経営も揺るがしましたが、「危機は倫理的進歩をもたらす」とのドイツの哲学者、マルクス・ガブリエルの言葉もあります。コミュニケーションで得られる幸福度は、リモートより対面のほうが大きいという研究結果もあります。コロナ禍は、実践教育の存在意義と価値を再評価する、よい機会になったのかもしれない。

私学経営を取り巻く環境は厳しいものの、皆さまとともに、危機を乗り越えていければ幸いです。

profile …(おおの・ひろゆき) 学校法人国際学院理事長、国際学院埼玉短期大学学長、国際学院中学校高等学校校長。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員(学校法人分科会)などを歴任し、現在、中央教育審議会臨時委員(大学分科会)、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員などを務める。

BILANC(ピラック)とは、“つり合い”“均衡”を意味する「バランス」の語源となったラテン語で、当財団と維持会員が、バランスを保ちながら、ともに歩んでいきたいという思いを込めています。

表紙撮影:野瀬勝一



「ほどほどの距離感」が、長続きの秘訣

# デジタルとの良い付き合い

便利さの裏には意外なリスクも。“ちょうどいい”使い方を考えてみませんか？



医師、早稲田大学スポーツ科学学術院 教授

## 西多昌規

(にしだ・まさき) 大学病院などで幅広い精神科臨床に長年従事。睡眠科学や睡眠障害に関心を持ち、人間を対象とした研究をハーバード大学やスタンフォード大学などで行う。アスリートのメンタルケア、発達障害も専門とし、2017年より早稲田大学スポーツ科学学術院にて教育研究に従事。著書に「眠っている間に体の中で何が起きているのか」(草思社)など。

### 電子機器が「体・脳・心」に与える影響

**私**たちの生活に欠かせない、スマホやパソコン、タブレットなどのデジタル機器。毎日どれくらいの時間触れているか、意識したことはありますか？

総務省の「令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」によると、1日当たりのインターネットの利用時間は年々増加傾向にあります。2012年は71.6分だったのに対し、2022年には倍以上の175.2分という結果でした(図表①)。年代別では、20代が264.8分と最も長く、続いて30代の202.9分、10代の195.0分と並びます。中でも「モバイル機器」(スマホを含む携帯電話全般)の1日あたりの利用時間は、10代~60代のどの年代でも、他のデバイスの利用時間を上回り、20代ではなんと200分を超えています(図表②)。

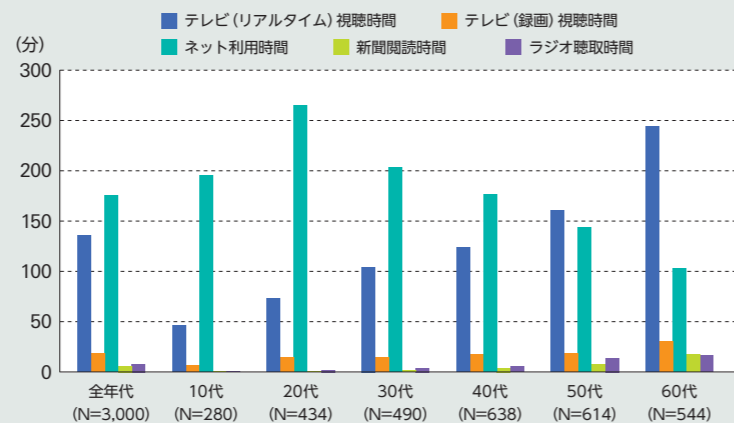
また、SNSを含む「ソーシャルメディア利用」は、10代および20代の平均利用時間が、他の年代よりも大幅に長い傾向となっています。デジタル機器を介したコミュニケーションは、若い世代にとってはもちろん、ビジネスパーソンにも浸透しています。

デジタル機器の利用は、仕事やSNSの利用に留まりません。今は、

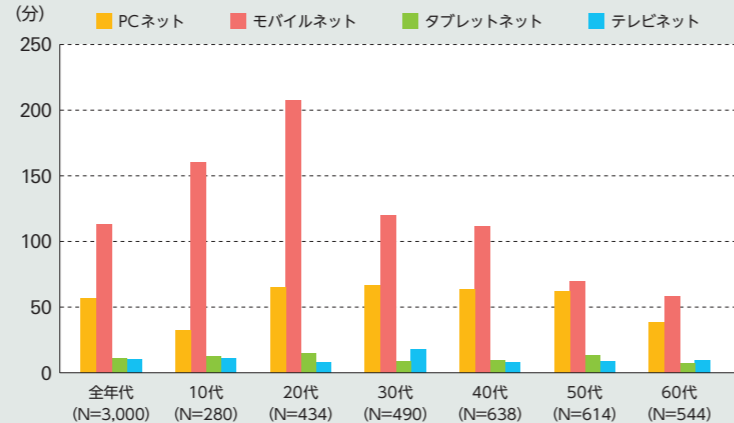
飲食店での注文や支払いをタブレットやQRコードで行うことも珍しくなく、私たちは日常的に、その便利さを享受しており、その影響は非常に大きなものとなっています。

生活の上ではもはや必需品であるデジタル機器との上手な付き合い方について、精神科医・早稲田大学スポーツ科学学術院 教授の西多昌規さんに、お話を伺いました。

図表① 【令和4年度】[平日]主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)



図表② 【令和4年度】[平日]主な機器によるインターネット平均利用時間(全年代・年代別)



**ラ**イフスタイルや世代にもよりますが、1時間、スマホを手放した状態でいられないようであれば、依存度が高い状態であると考えられるでしょう。

便利さの反面、デジタル機器を無意識に長い時間使い続けること

が、心や身体に大きな負担をかけてしまっていることも知っています。ほしいと思います。

今回は、デジタル機器が「体」「脳」「心」にもたらす影響を解説しながら、デジタルとうまく付き合うコツを紹介します。

## 体の不調と疲れはスマホが遠因かも

体に与える影響として最も耳にするのが「肩凝り」です。これは、本来緩やかなカーブを描いているはずの首の骨が、画面をのぞ

き込む前傾姿勢によってまっすぐになってしまう「ストレートネック」が原因です。通称「スマホ首」とも呼ばれています。人間の頭は体重の約10%を占め、ボウリングの球ほどの重量があります。本来は首のカーブによって重さが分散されているのですが、画面を見るためにうつむきがちになることで、大きな負担がかかります。長時間、このような前傾姿勢を続けていることにより猫背になって、首の筋肉が硬化した結果、首の血管や神経までを圧迫してしまいます。そのため、首の痛みや肩凝り、頭痛などを引き起こすのです。

ビジネスパーソンにとっては、日常的にパソコンで仕事をする中で必然的に椅子に座っている時間が長くなることも、肩凝りの原因と考えられます。紙の文化の時代、チャットツールやオンライン会議が発展する前の時代には、こまめに立ち上がって同僚のところに行ったり、会議室に移動したりと、座りっぱなしでいることは今ほど多くなかったはず。ところが今は、休憩時間にもなんとなくスマホやパソコンの画面を眺めてしまう人も多く、立ち上がるということが減りがちです。そのため、腰や背中が張り、肩凝りの悪化につながるのです。

こうした「座りすぎ」は「セデンタリー・ライフスタイル(座りっぱなしの生活)」と呼ばれ、肩凝りのように短期的な悪影響だけではありません。脚の血流が悪くなるため、長期的には血管系疾患や肥満、糖尿病などの健康被害につながるこ

とがわかっています。座りっぱなしの時間が長ければ長いほど死亡率が高いという報告もあり、セデンタリー・ライフスタイルに警鐘を鳴らす動きが世界的に広がっています。30分~1時間に1回程度は、画面から目を離し、立ち上がるように心がけましょう。

視界のかすみや目の乾きなど、いわゆる「眼精疲労」も多くの方が実感していると思います。スマホの画面を見ている間は、紙を見ているときと比較して視線の動きが小さく、まばたきの回数が減ることから、目の表面が乾燥し、眼精疲労につながりやすいといわれています。

デジタル機器から放射されるブルーライトも、目にはよくありません。ブルーライトは、目の奥まで届く非常にエネルギーの強い波長体で、長時間見ることによって、体内時計のリズムが乱れることが知られています。特に、夕方以降に見続けていると、睡眠の質が悪くなったり寝つきを遅くしたりするので、夕方以降にダラダラとスマホを見る癖がついている人は要注意です。また、ブルーライトは、長時間浴び続けていると白内障になりやすいとも指摘されています。白内障は、加齢も要因の一つと考えられるため、ブルーライトだけが原因とはいえませんが、ブルーライトが老化を促進している可能性は否定できません。

ブルーライトをカットする眼鏡を利用することも対策の一つですが、効果は「かけないよりはいい」という程度。完全にシャットアウト

トできるわけではないので、過剰は禁物です。

## 便利さの一方で脳は疲弊している

次に、脳にもたらす影響ですが、デジタル機器の長時間使用は、脳を疲れさせ、注意散漫にしています。メールにニュースサイト、カレンダー、ビジネスチャット……複数のウィンドウやアプリを、パソコンで開きっぱなしにしています。

今はパソコンの性能が向上したため、いくつでもアプリを開いたまま作業することが可能になりました。「マルチタスク」といえば聞こえはいいですが、実はマルチタスクが、脳を疲れさせる原因の一つ。脳の一度に注意を向けられる「注意資源」には限りがあるため、開いているアプリを使っていなくても、起動させて目に入っているだけで、脳のエネルギーを消費(負担を大きく)し、集中力を低下させてしまうのです。

イギリスのサセックス大学の研究では、動画を見ながら会議に参加したり、ネット検索をしたり、複数のデバイスを頻りに横断して操作していると、脳の灰白質の密度が低下してしまうことが判明しました。このことは、老化をもたらす一因ともいわれています。

作中に、スマホの通知音をオフにしても、画面にアプリやメールの通知が表示されるだけで気がそれてしまう……きっと皆さんにも経験があるでしょう。そ



うすると、やっていた仕事が途切れたり、そのまま作業を忘れてしまったりしがち。小さなことの積み重ねで、パフォーマンスにも影響が出てしまいます。

また、デジタル上の画面で見える情報は、紙で見るときよりも頭に入りづらいことがよく指摘されています。目にするのが同じ情報でも、デジタルと紙とは脳の違う場所が働くから、という説もあがっています。ただ、これは幼少期よりスマホやパソコンに触れ、タブレット学習を体験しているデジタルネイティブ世代には当てはまらない可能性もあり、世代によって感じ方が異なるでしょう。

私のように紙の教科書で育った世代にとっては、紙であれば「あのページのこのあたりに書いてあったな」と位置感覚で覚えていたことが、画面上で見ると、周辺情報が頭に入らず印象に残りづらい感覚があります。加えて、画面上の情報は、本と違って物理的な厚みやページをめくる手触りがないため、「勉強している」「仕事している」という意識になりづらいことも実感しています。

### 雑談不足、「即レス」対応心の負担もアップ

デジタルが与える心への影響も少なくありません。今ではすっかり定着したオンライン会議は、参加者の表情から感情が読みづらく、繊細な話題は出しにくいものです。しかし、オンライン会議は簡単にはなくならないでしょう。雑談にも不向きで、リアルなコミュニケーションとは明らかに異質なものです。この異質さが、特に若者のメンタルに影響を与えています。

例えば、フルリモートの会社において若者が心を病みやすいのは、仕事がわからないときに気軽に聞けない状況が一因です。フルリモートにするのではなく、週2回程度のリモート業務が適切なバランスではないかと、私自身感じるがあります。

オンとオフを完全に分けられなくなっているのも、メンタルを疲れさせる要因の一つです。スマホの通知でリアルタイムに連絡を確認できる状況は、便利な一方で「すぐ対応しないとイケない」と、常に追われているような感覚にも

つながりかねません。休日には仕事のメールは見ないようにしたい、と思っても、なんとなくチェックしてしまう人も多いでしょう。

心理的な負担の中でも、若者の「SNS疲れ」は深刻です。1年半ほど前、学生たちにSNSの利用について聞いたところ、「LINEでのリアルタイムなやりとりで疲れる」「不要な情報が次々と入ってくる」などの悩みが挙げられました。相手からの返信が遅いと「見捨てられた」と感じたり、文面が短いと「自分の文章が誤解を与えたのではないかと、不安になってしまったりすることもあるようです。

SNSのトレンドはめまぐるしく変わるので、学生の悩みは年々変わってきているかもしれません。それでも「過剰に情報が流れてくることで、心理的負担がある」のに「連絡に必要不可欠なツールになっているから、断つにも断てない」という依存状態が本人によって正当化されやすいのは、共通していることでしょう。

特に若者の場合、友人以外とのコミュニケーションに熟練していないので、相手との距離の置き方、表現の方法、真偽の判断などが難しく、ストレスになりやすいです。SNSは、電話や対面での挨拶、メールのように、確立されたビジネスマナーやルールがありません。どうしたらいいかわからないからこそ、必要以上に気を遣い、心理的に疲れてしまうのだと思います。

### 上手に付き合うための「デジタルダイエット」

現在のデジタル機器の利用状況は、「茹でガエル」の状態です。慢

性的で、すぐに悪いかはわからないけれど、長期的にみたら危ういということです。なんとなく、自分はデジタル機器を使い過ぎているのではないかという不安を抱えている人は少なくありません。そんな人に向けて、断食のようにデジタル機器を断つ「デジタルデトックス」という言葉が広まりました。「デトックス」とは、「解毒する」という意味です。私は、世の中でいわれているデジタルデトックスとは、「デジタルの悪い要素を排除すること」と捉えています。ただだけデジタル機器が暮らしに馴染んだ社会で、日中のオンの時間帯にデジタル機器を排除することは難しいと感じています。メールや電話、アプリから完全に切り離され、逆にデジタル機器を使用しないことがストレスになることもあります。ですから「排除する」のではなく、デジタル機器を使用する時間を減らす「デジタルダイエット」を意識するほうが現実的でしょう。

「ダイエット」は、食事や運動をコントロールして、体重を理想の数値に近づけることですから、目標となる数値があります。それと同じように、「数字で現状を把握する」ことから始めましょう。自分がデジタル機器を使用している時間はどの程度で、それをどのくらいまで減らしたいのか、目標値を設定することです。使いすぎないようにしたいと思いつつ、なかなか行動に移せないのは、体重や血圧のように明確な目標がないと、行動変容を生みづらいからでしょう。

まずは、自分の平均利用時間を把握して、自分にとって適正な時間を考え、その時間よりも増えな

図表④ 気軽にできる「デジタルダイエット」の例

- ① 寝るときにスマホは別の部屋に置く
- ② スクリーンタイムをチェックする
- ③ 自分なりの「利用時間の基準」をみつける
- ④ 不要なアプリ通知はオフにする
- ⑤ 少しだけ離席するときはスマホを席に置く

いように意識することが、デジタルダイエットの第一歩といえます。スマホの場合、スクリーンタイム機能を使えば、デバイス上でどのくらい時間を費やしているのか確認できるので、まずはそれを利用して現状を把握してみましょう。

ちなみに韓国の調査では、4時間以上のスマホ利用は健康被害のリスクが上がるという結果が出ています。「仕事以外では2時間の利用が望ましい」というスイスの研究もあります。冒頭で紹介した世代別の利用時間を確認して、同世代と比較して使い過ぎているようであれば、まずは平均的な利用時間に近づけるように努力する、というのもおすすめです。

### 「手放すと不安」なら無理せずできることから

いざスマホを手放すと、なんとなく落ち着かない気持ちになったり、中には眠れなくなったりする人もいます。そんな人は、「スマホを寝室に持ち込まない」ことから始めるといいでしょう。寝る前のスマホ利用や、夜中に通知音で目覚めることは、睡眠の質を低下さ

せます。スマホは寝室に持ち込まず別の部屋で充電しておく……という習慣であれば、取り入れやすいのではないのでしょうか。

寝る前のスマホについて、私はブルーライト以上にコンテンツの影響が大きいのでは、と考えています。刺激的な内容やネガティブな内容、ゲームのように脳を興奮させる内容は避け、何か観たいのであれば、自分自身がリラックスできるものをおすすめします。

日中にできる工夫としては、「アプリの通知を少なくする」「マルチタスクを減らす」「座りっぱなしを避ける」「トイレなど、少しの離席の際にはスマホを持ち歩かない」などが考えられます。

これからの世の中が、ますますデジタル化していくのは確実です。生活を便利にするものですから、過度に心配するのではなく、共存していることを肯定的に捉えたほうが前向きです。デジタルの負の影響は自覚しづらからこそ、長期的な弊害があるということを理解して、自ら使用時間などを見直していく必要があります。できることからでいいので、ぜひ試してみたいと思います。

図表③ デジタル機器が与える影響





# 理事会・評議員会開催報告

## ■ 事業報告

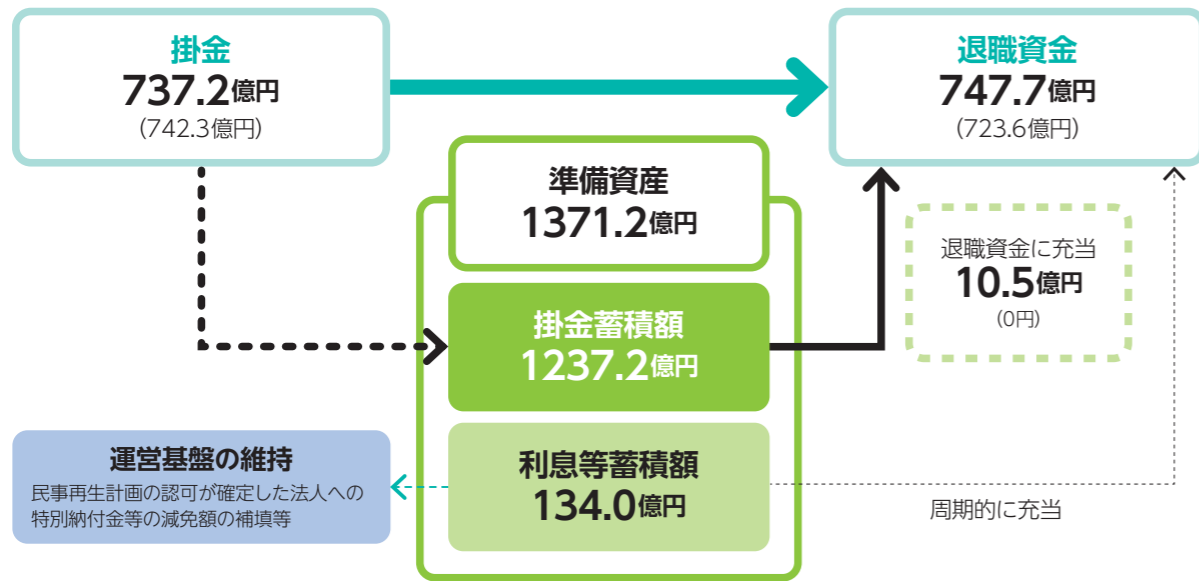
### 法人運営について

2023年度は退職資金交付事業の確実な遂行を最優先に取り組み、新退職資金申請システム（e-マネージャ）の構築を進めると同時に、事業継続のための施策を整備しました。また、理事会、評議員会等については、コロナ後も引き続きWeb会議システムを併用して、役員及び評議員への説明や意見交換を行い、組織運営を滞りなく進めました。

### 退職資金交付事業について

第12次掛金率は、準備資産を退職資金の1年分相当に近づける方針に則って準備資産を取り崩す計画としています。本年度は退職資金交付金が前年度より24.1億円増加した結果、掛金の合計額を10.5億円上回りました。その差額は準備資産（掛金蓄積額）を取り崩し、充当しました（下図参照）。事業報告及び財務諸表は、Webサイトで公開しています。

### 退職資金交付事業に係る収支



※掛金には特別納付金を、退職資金には退職資金特別交付金を含む。  
※( )は2022年度の決算の値。

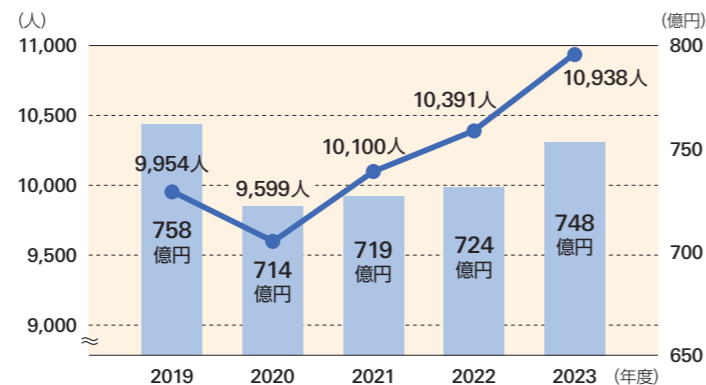
### 退職者数等の概要

**退職者数 10,938人**  
財団設立以来最多

**登録者数 10,300人**  
過去10年間の平均は10,223人

**一人あたりの交付金額 682.8万円**  
過去10年間で最小

### 退職者数と退職資金交付金の推移



## ■ 経常増減額と正味財産

経常収益	754億円
経常費用	750億円
当期経常増減額	4億円
一般正味財産期末残高	135億円
指定正味財産期末残高	1億円
正味財産期末残高	136億円

経常収益は主な事業収入である掛金、特別納付金737億円が97.7%を占めており、その他は特定資産運用益6.4億円、掛金蓄積額の退職資金交付金への充当額10.5億円などです。

経常費用は、主な事業支出である退職資金交付金、退職資金特別交付金の合計748億円が99.6%を占めており、その他は管理費2.7億円です。

### 準備資産は主に国債で運用

資産の運用対象は、原則として国債、地方債及び政府保証債としています。運用資産はすべて信託財産としており、満期保有を目的としたラダー型運用としています。

## ■ 退職資金交付業務方法書等を一部改正

2024年2月開催の第34回理事会で決定された「第13次掛金率の基本方針」に基づき、2025(令和7)年度から2027(令和9)年度まで適用となる第13次掛金率に係る退職資金交付業務方法書及び同施行細則の一部改正を行いました。また、私立学校法の一部改正に伴い、同法を参照している条文を改正しました。これらの改正の施行日は2025年4月1日です。

### 改正点

- 掛金率を1000分の111.4とし、平均在職年数ごとに掛金率を規定する基本掛金率表を改定
- 第13次掛金率の適用期間に合わせて、補正掛金率等の算定にあたって基準となる年度を改正
- 交付率の選択に伴う基本掛金率の調整係数を改定

## ■ 新システムの開発について

新退職資金申請システムの開発については、2022年7月から開始し、2024年10月末の本稼働に向け取り組んでおります。

今回の開発においては、社会全体におけるデジタル化推進が急速に展開されていることを踏まえて、退職資金交付事業の事務手続きを見直し、財団、維持会員双方の事務負担の軽減につながるよう検討を行ってきました。

新システムの開発は、スケジュール通り順調に進んでおり、2024年6月現在、システムテストが完了し、追加機能の開発、受入テストに着手しています。

## 財団の制度と決算がわかる 年次報告書 (Annual Report)

事業報告等の概要は、年次報告書をご覧ください。当財団の年次報告書 (Annual Report) には決算の全体像、財務諸表や事業報告書等の概要、当財団の制度の概要や活動を掲載しています。Webサイトからダウンロードできます。



※2023年度版は8月末の発行予定です。

## ■ 評議員・役員の就退任について

就任 (2024年6月25日)	評議員	石田 憲久 (青森田中学園理事長)
	理事	浜本 隆之 (東京理科大学理事長)
	理事	矢野 泉 (広島修道大学学長)
	監事	村崎 文彦 (村崎学園理事長)

退任 (2024年3月31日)	評議員	田中 厚一 (前帯広大谷短期大学学長)
	理事	本山 和夫 (前東京理科大学会長)
退任 (2024年6月25日)	理事	荒川 一郎 (前学習院大学学長)
	監事	藤田 利久 (前埼玉純真短期大学学長)





# 時代に合わせて 「より便利に」 「より使いやすく」

新退職資金申請システム（t-マネージャ）が  
2024年10月末（予定）に稼働します



## 直感で操作しやすいデザイン（基本操作に変更はありません）

維持会員の担当者さまが操作に慣れていなくても大丈夫なように、トップ画面をはじめ操作がわかりやすいよう、ユーザーインターフェースを見直しました。  
選択すべきお手続きのボタン、お手続きの状況、お知らせなどがわかりやすくなっています。



## 脱FAX・ペーパーレス化の推進

- ・維持会員が教職員に支給した退職金の受領書等がオンラインで提出できます。※郵送での提出も可能です。
- ・維持会員が退職資金を受け取った際の「退職資金受領書」を廃止し、郵送での返信が不要になります。
- ・IPアドレスの登録、アカウントの手続きもオンラインで完了します（届出印の登録も不要になります）。

## 電子ファイルの提供を拡充

維持会員ごとの毎年3月末時点で登録されている教職員の一覧や年度末の掛金と退職資金の各累積額などをExcelファイル形式で、t-マネージャの電子ファイルキャビネットに提供します。



## 届出がほぼオンラインに 双方の押印を減らします

維持会員からの退職資金交付申請書や当財団からの退職資金交付額決定通知書などの押印を見直し。退職資金交付申請書は、事務責任者の承認で届出手続きは完了です。  
※特別な申出の場合には押印をお願いする場合があります。



## 利用時間の拡大

サービス提供時間を6時から22時までの16時間に拡大。  
稼働日は年末年始・メンテナンス日を除いた年間340日に。  
教職員異動届の締め日は土・日・祝日でも前倒しせず、10日になります。



## 利用できる文字の増加

システムで利用している氏名や住所などを表示するための文字コードを「Shift\_Jis」から「Unicode」に変更し、利用できる文字を大幅に増やしています。

鷗  
吉 晴

新システムに関する説明会を全国5会場で開催します。

- 9月24日、25日、26日 東京
- 10月4日 札幌
- 10月10日 名古屋
- 10月11日 京都
- 10月17日 福岡

ご参加  
お待ちしております！



注：画面イメージは2024年7月現在製作中のものです。  
サービス提供時間は6時～22時となりますが、当財団へのお問い合わせ時間は9時～17時、ヘルプデスクの受付時間は9時15分～17時です。



郷土の歴史を象徴する  
お城の形の博物館

能勢電鉄「一の鳥居」駅のホームから望める高台に建つ立派なお城。こちらは大阪青山大学北摂キャンパスの大阪青山歴史文学博物館です。

博物館がある兵庫県川西市は、多田神社を擁する清和源氏発祥の地としても知られています。平安時代には源満仲が拠点とし、清和源氏発展の基礎を築きました。戦国時代には、その一派である塩川氏がこの辺りを治め、織田氏や豊臣氏との関係などで再注目されています。同大学の創設者である故・塩川利貞元理事長・学長も、塩川一族の子孫にあたるそうです。

塩川元理事長・学長は歴史や文化への造詣が深く、積極的に古文書や典籍などの収集を行っていました。これらを調査、研究、収蔵、展示するための施



国宝・重美から、この土地ならではの文化財までを収蔵

設として、1999年に大阪青山歴史文学博物館が開館したのです。

「この場所は、清和源氏発祥の地であるように、歴史的に重要な地域。近くに山之城があったこと、戦国時代に織田信長が来訪したことなどから、外観はお城にしようという話になりました。設計では安土城に代表される近世の天守閣を参考にしています」

そう話すのは、同大学教授で主任学芸員の小倉嘉夫さん。所蔵品の管理のほか、博物館で行われる大学の授業や、一般の人を対象にしたイベント・セミナーの講師役も務めています。

イベントやセミナーで  
「地元密着」を模索中

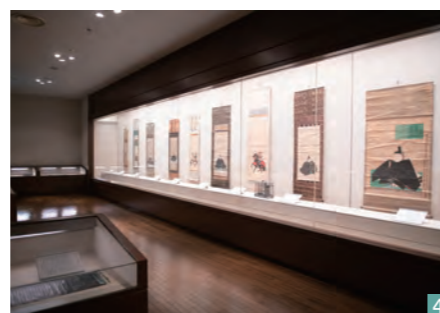
約4000点ある収蔵品の中で、特に貴重なのは、国宝「土左日記\*」。800年近く前に著者自筆本から直接書写されたものです。ほかにも多数の収蔵品が国の重要美術品に認定されていますが、博物館の見どころは収蔵品にとどまりません。4階には「城主の間」を再現した特別展示室があり、部屋の両側のふすまと天井には、鮮やかな色彩の花鳥画が描かれています。ここでは高松宮家から大学に寄贈されたテーブルセットや筆筒も展示。さらに最上階には地域を一望できる展望室があり、妙見山や阪神間の街並みの眺望を楽しめます。

博物館は、新型コロナウイルス感染拡大を境に休館中。しかし地域住民からの「地元の貴重な資料を見たい」という要望を受け、定期的にこの地域の歴史についてのセミナーや公開イベントを行っています。

「敷地内には立派な桜並木があるので、2022年からは地域コミュニティと連携して、『お城桜まつり』も開始しました。維持管理は大変ですが、地域に開かれた施設として継続できればと願っています」(小倉さん)

# 住民との交流続く “文化の天守閣”

## 大阪青山歴史文学博物館(大阪青山大学)



1 4階の「城主の間」。博物館が安土城をモチーフに造られたことから、豪華絢爛な安土桃山時代をイメージ。2 もとは平泉の中尊寺に収められていた「中尊寺経(紺紙金銀字交書一切経)」。紺色の紙に、お経の文言が一行ごとに金字と銀字で交互に書写されている。切り取られず、一巻がそのまま残るのは貴重。奥州藤原氏の初代当主、清衡(きよひら)が奉納したもので、1120年頃に書写されたもの。3 国宝「土左日記」。藤原為家が嘉禎2(1236)年、蓮華王院にあった紀貫之自筆の「土左日記」を一字も違えずに書写したもの。この時代の文学作品で、原著者の自筆本から直接書写したものが現存する例はとて少ない(写真提供=大阪青山大学)。4 2階の第1展示室。5 川西市は三ツ矢サイダーの発祥地でもある。当時は「平野水」と呼ばれ、宮内省御用達でもあった。この看板は約100年前のもの。6 博物館の外観。城郭建築ができる職人を集めるのに苦労しつつも、「本物」を目指してつくり上げた。

\*一般的には「土佐日記」の表記で知られるが、この写本では「土左日記」と書かれている。



# 相模女子大学

夢をかなえるセンター



キャンパス内の梅から作ったオリジナル梅酒「翠想」と、プロジェクト活動で連携した地域の特産品の数々。

## 地域と連携し、学生の夢を応援！ キャリア形成支援の新しいカタチ

### 多種多様なプロジェクトで 強みとスキルを培う

地域連携に取り組む大学は数多くありますが、中でも日本経済新聞社が実施する「地域貢献度ランキング」で、2011年から9期連続の1位(女子大学部門)に輝いているのが、相模女子大学です。

相模女子大学には、地域連携を含めた正課外の活動、就職活動、生涯学習から、学生のキャリア形成支援を推進する「夢をかなえるセンター」があります。

「夢をかなえるセンター」の多岐にわたる取り組みの中で、特筆すべきが「Sagamiチャレンジプログラム」です。これは、週末や長期休暇を利用して、全国の地域で3日～1週間程度を過ごす正課外プログラム。企業と連携した商品開発や、海外に子ども用車椅子を届ける活

動、被災地復興支援活動など、国内外で多種多様な取り組みを行っています。学生にとっては、実際に地域に入り込むことで社会課題を学ぶきっかけになり、地域にとっても、学生の専門性や活力をまちづくりに生かすことができるため、双方にメリットがある事業です。

活動形態は、ボランティア、体験活動、地域協働活動、プロジェクト活動、国際教育活動に分類され、プロジェクト活動は1年間の参加が基本。一部の活動を除き単位には認められていませんが、学生が現地での体験から自分の強みやスキルを培い、キャリア形成について気づきを得るための機会が連続的に設けられています。コロナ禍で一時的に減少してしまったそうですが、2024年1月時点で、全学生の23%の学生が参加しています。

### PDCAサイクルを回し 自己分析と成長を促す

「2008年から、社会マネジメント学科の学生向けに始めた、鳥取県境港市との連携プログラムが始まりです。それと同時期に、農林水産省が主催する「田舎で働き隊！」に、女子大学としては全国で初めて、本学の学生が参加しました。福島県本宮市、三重県熊野市などの自治体と連携し、そのご縁から学生が現地を訪問するだけでなく、現地の方々と一緒に、相生祭(学園祭)で各地域の特産品を販売するようになり、連携の輪が広がっていきました」

そう解説するのは、人間社会学部 社会マネジメント学科教授の湧口清隆さんです。最初は学科としての取り組みでしたが、学科外からも地域活動への参



## 地域連携の継続には 学生と地域社会の Win-Winの関係性が大事

専門職大学院 社会起業研究科  
人間社会学部 社会マネジメント学科  
教授 博士(商学) 湧口清隆さん

加を希望する学生が増えたことで、大学を挙げて取り組むべき活動だと、職員間で認知されるようになったそうです。

しかし、全学的活動に移行した当初、これらの正課外活動は単位を取得できないばかりか、目的や意義が明確でなく、学生も何のために参加しているのか自覚できないままになっていました。

そこで、専用のシラバスを作成し、プログラムの概要と併せて各地域が抱える課題や活動目標を提示。学生が、活動に参加する上での目標を設定し、終了後には振り返りを行って、気づきや課題を次の活動に生かすPDCAサイクルで、継続的な学びにつなげられる仕組みを構築していきました。

「これを『マーガレットスタディ』(マーガレットは学花)と呼んで推進しています。参加している地域のために何が有効なのか、学生自身が試行錯誤し、実体験を通してPDCAを回すことで、正課授業では見つけられなかった自分の強みやスキルを発見し、キャリアについても新しい視点から考えられるようになっていきました」(湧口さん)

### 活動を通じて広がる 視野・興味・人脈

現在、Sagamiチャレンジプログラムでは、農業体験や特産品の販売、伝統芸能の体験など、30以上のプロジェクト活動を用意しています。

中でも人気の活動が、三重県熊野市

にある棚田・丸山千枚田の保存活動に参画する「丸山千枚田魅力発信プロジェクト」です。リーダーの横井碧さん(人間社会学部 社会マネジメント学科2年)は、1年生の時にSagamiチャレンジプログラムについて知り、まず2泊3日の田植え体験に参加したと振り返ります。

「きっかけは、三重県に行ってみたという単純な動機でした。でも、実際に田植えを手伝ってみると予想以上に大変な作業でした。受け身では何をしても良いかわからず、地域の方々や先輩方の足を引っ張っていると感じたこともあり。それでも地域の皆さんが温かく、孫のように可愛がってくれ、途中から自ら進んで行動出来るようになりました。その後も何度か訪問して交流を続けるうちに、熊野市やそこに住む皆さんへの想いも増し、今では第二の故郷のように思っています。入学当初は、自分のやりたいことが明確ではありませんでしたが、この活動をきっかけに価値観や考え方が変わり、地域づくりや福祉に興味をもつようになりました。今では千枚田

のオーナー数の伸び悩みなどさまざまな課題を解決したいと考えています」

「Sagamiチャレンジプログラムに参加した学生は、自身のキャリアプランが明確になり、積極的に就職活動を進められる傾向がある」と話すのは、夢をかなえるセンター 連携教育推進課 社会連携推進室 係長の三木若葉さんです。

「プロジェクト活動に参加したことによって、コミュニケーションスキルやプレゼンスキルが向上した学生は非常に多いです。活動で得た経験や知識を生かして就職先を選ぶ学生も増え、公務員や農協など、これまで想定されてこなかった進路を目指す学生も増えました。子ども教育学科で小学校教諭を目指して学んでいた学生が、新潟県佐渡市のプロジェクト活動に参加したことで、地域のためになる仕事をしたいと進路を変更し、地元の信用金庫に就職した例もあります。また卒業後、アドバイザーとして後輩の支援に携わる卒業生も増えています」(三木さん)

### 双方にメリットがある 関係の構築が大切

夢をかなえるセンターでは、学生を各地域に送り出して終わるのではなく、その後も学生と地域との交流が継続できるような工夫をしています。地域連携を継続していくには、学生にとっても、地域にとっても、Win-Winの関係を構築することが大事だと湧口さんは言います。

## 社会との関わりの中で 自分の軸を見つけ 人生を切り拓いてほしい

夢をかなえるセンター  
連携教育推進課 社会連携推進室  
係長 三木若葉さん







## いまや熊野が第二の故郷 活動で価値観が変わり 将来の方向性に変化

人間社会学部 社会マネジメント学科2年  
横井 碧さん

「例えば、相生祭で開催している地域物産展では、地元・相模原市はもちろん、学生たちが活動を行う全国各地の生産者団体にも参加いただき各地域の名産品を販売しています。日頃学生たちがお世話になっている各地域と本学が立地している相模原市の方々と結ぶ催しであり、毎年約2万人が来場する相生祭の目玉企画の一つです。地方の生産者さんにとっては、学園祭に出店すれば、直接消費者の声を聞くことができ、自分たちの商品を首都圏に広げていくためのヒントが得られるのです」

地域物産展の盛況ぶりが話題になり、小田急百貨店(町田店)で地域連携フェアとして相模女子大学と連携・交流のある地域や企業の商品を販売するイベントを過去数年間にわたり開催したことも。

「学生にとっては、地域の商品を自分が体験したストーリーとともにお客様にアピール・プレゼンするいい機会になります。この経験によって進路を鉄道会社のグループ企業に決め、バイヤーとして地域と関わった卒業生もいます」(湧口さん)



横井さんが参加した、「丸山千枚田魅力発信プロジェクト」活動の様子。昔ながらの手作業での農業体験を行う。

### 近隣地域との連携を強化 未来を担う女性の育成へ

各地域との連携に力を入れてきた相模女子大学ですが、今後は近隣地域との連携を強化したいと意気込みます。

「これまでは神奈川県外地域との連携が多く、評価されてきました。今後は、蓄積してきた知見を地元のまちづくりにも還元したいです。過疎や地域振興への知見は神奈川県にも役立つはず。2024年度からは、神奈川県内の高校の探究学習支援を担当しますので、本学併設校の高等部だけではなく、地元の高校生でも、横浜発祥のベーカリー「ボンパドウル」のレシピ開発や、本学キャンパス内にある梅の実収穫(収穫後、地元酒造とともにオリジナル梅酒をつくる)などに参加いただけるよう、活動を広げたいと考えています」(三木さん)

多様な価値観をもつ学生たちのキャ

リア形成を考え、さまざまな選択肢の用意が求められる昨今、夢をかなえるセンターの取り組みは学生と社会がより良くつながる手掛かりになるかもしれません。

「そもそも、学生生活は正課の学びだけで送るものではなく、サークル活動もあれば、アルバイトもある。その中に、正課外の活動もあっていいはず。社会との関わりを積極的に増やしながら、自分の道を見つけてもらいたいと思っています。いろいろなことに挑戦しながら、主体性や柔軟なコミュニケーションスキルを育み視野を広げ、自らの人生を切り拓いてほしい。その機会を提供するのが、私たちの使命です」(三木さん)

「見つめる人になる。見つける人になる。」という本校のスローガン通り、課題発見力と発想力に富んだ女性を育成していきたいと思っています。不確実性が高い時代において、どんな場所でも、明るい社会を築いていけるような賢く温かい女性、柔軟なコミュニケーションでさまざまな人と協働できる人になってほしい。Sagamiチャレンジプログラムを通じて、社会課題に目を向け、豊かな発想の源泉になる体験を積んでもらい、リーダーにもサポーターにもなれるような人材を育成することで、大学としての使命も果たしていきたいです」(湧口さん) **B**

### 学校散歩

#### 世界の視点から日本を学ぶ 日本学国際研究所

2024年4月に相模女子大学日本学国際研究所が開設されました。同学には文学、サブカルチャー、デザイン、マーケティング、食・栄養、コミュニティなど様々な領域の教員がおり、幅広い研究が豊富に蓄積されています。同学の特性を活かしながら日本を多角的に捉え、その成果を社会へ還元することが研究所の目的です。生まれたばかりの研究所の取組にぜひご注目ください。



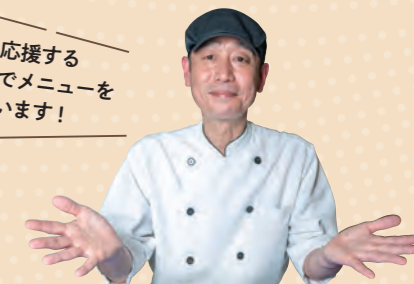
研究所がある附属図書館は、日本図書館協会建築賞を受賞した。田畑雅英学長と、学園キャラクターの「さがっば・ジョー」。



## 「音楽の道」のデザイン食堂

### TCM 学生と街のレストラン (東京音楽大学)

学生を応援する  
気持ちでメニューを  
考えています!



東京の池袋と中目黒・代官山にキャンパスをもつ東京音楽大学。「まちと協奏するみどりの音楽大学」というコンセプトの緑豊かな中目黒・代官山キャンパスの中に、開放感あ

ふれる学食「TCM 学生と街のレストラン」があります。この学食は学生以外も利用でき、近隣企業の方がランチに訪れることもあるのだそう。大きなガラス窓からは木々が見え、緑の中にあるような空間が広がっています。長テーブルには、現代美術家・五月女哲平氏による楽譜をイメージしたアートを配しています。

そんなオープンで華やかな雰囲気には合うメニューがこの自慢。ロコモコプレート、チーズハンバーグやオムハヤシなど、学生でも食べ応えのあ

る洋食メニューが特に人気です。学生からのリクエストに応える形で実現したタコライスも、人気メニューの一つ。季節感や学生からの声、人気を意識しながら、新しい発見をしてもらえるように、日々メニュー開発に励んでいます。

「学生と街のレストラン」という名前の通り、音楽の道を進む学生や卒業生と、地域の方がこの場で出会うことで、新たなイノベーションを生み出し、協奏していく——そんな未来を予感させます。



女子学生からの人気が高いロコモコプレート。



## 01 SNS世代の 学生に向けた 情報モラルガイド

▶法人名 修文学院  
▶大学名 修文大学



修文大学では、病院で実習を行う医療系の学生を対象に、患者に関する個人情報の適切な取り扱いについてまとめたガイドブック『臨床実習における情報モラルガイド』を作成しました。これは、学生への聞き取りを基に、実際におきた実習中の情報漏えいトラブルなどの事例と、その法的な問題点を、マンガ形式で解説したものです。医療系の学生だけではなく、一般の学校や企業からの問い合わせもあり、これまでに広く活用いただいています。

このガイドブック作成の背景には、スマートフォンやSNSの普及とともに育ってきた学生たちの情報モラルに対する危機感がありました。学生は、病院での実習

の際、個人情報保護に関する誓約書を交わします。しかし、「これくらいならば大丈夫だろう」と実習記録を撮影して共有してしまう、鍵付き(非公開)のSNSアカウントで患者の情報を発信してしまうなど、守秘義務に対する意識の低さで引き起こされるトラブルが散見されました。

医療職になれば、必然的に守秘義務が法律で示されますが、無資格のため法律の適用外であっても、医療系学生であるからにはモラルと自覚を十分にもつことが重要です。学生には、「なぜ問題なのか」を法律の観点から理解させる必要があるという考えで、ガイドブックの制作に至りました。

どのような形式の教材が適切かを考えるにあたり、学生へのインタビューを実施して、実態調査を行いました。その結果、学生のSNSでの行動の基盤には「過去トラブルになった経験」「教育された経験」があるにもかかわらず、法律ではなく、みんながやっているなら大丈夫という根拠のない「マイルール」を基準にする傾向がありました。また、実際に起きた事件とその結末への関心が高いことから、問題が起きた後の行為に対する“法的な結果”を、学生にとってリアルな事例を通して伝える方向性に定まりました。SNSに関する事件や、看護関連のトラブル事例を用いて「なぜ正しいのか・なぜ誤りなのか」を根拠づけて

考えることができる構成となっています。

内容についてのアンケートによると、最も興味・関心が高かった項目として、「マンガでの事例紹介」が挙げられ、90%以上の方から好評を得ました。小手先の教育ではなく、法律面を土台にした“もの見方や対策”について伝えることが達成できたと受け止めています。

この情報モラルガイドは、本学のホームページでダウンロードによる提供を行ってきました。また、活用をしてくださっている学校の教員の方から、映像化のご希望も多くあり、自費でDVD作成もしました。このような活動が多くの方の目に留まり、看護系出版社のメヂカルフレンド社か

ら、より充実した内容で最新の情報を取り入れた改訂版として、今年の3月より販売しております。事例に基づいたDVDも販売しておりますので、ぜひ併せて、実習前のオリエンテーションなどでお使いください。



マンガ形式で読みやすいと、学生たちから好評だ。

## 02 杉並区長を招き 国際女性デーに イベントを開催

▶法人名 東京女子大学  
▶大学名 東京女子大学



上/当日は、YouTubeによる配信も行った。下/質疑応答では多くの質問が寄せられ、盛り上がりみせた

「とにかくやってみる生き方」を具現しており、参加者から数多くの前向きなご感想をいただきました。

第2部では「予測不可能な時代における女性の生き方」というタイトルで、岸本氏と本学卒業生3名とのパネルディスカッションを実施しました。①仕事の取り組み方②ワークライフバランス③予測不可能な時代における日本の女性のライフキャリアの3つについてお話し頂きました。特に③について「とにかくやってみる生き方」というのはリスクを取ることで、変化があるところに必ずチャンスがある」、「変化は怖いけど機会でもあり、やってみることで新しい景色が見える」のように、力強く希望溢れるコメントをいただきました。

講演会からパネルディスカッション、質疑応答まで、約3時間半という長丁場だったにもかかわらず、会場にいらした皆さんは集中して話を耳を傾けてくださっており、オンラインも含め参加者の皆様には今後の人生に大きなヒントを得ていただけたのではないかと思います。今後も杉並区にある女子大として、よりよい女性の生き方を、そしてそれと共にある多様性の実現を、杉並区や地域の皆さんと共に考えていけたらと考えております。

本学では、2024年3月20日に国際女性デー特別企画として「日々物足りなさを感じる女性に伝えたいとやってみる生き方～杉並区長から学ぶ、点を面にするためのアイデア～」を開催しました。杉並区長である岸本聡子氏の講演と、それに続く卒業生3名のパネルディスカッションという内容です。

この企画は、東京女子大学エンパワーメント・センターを中心に企画しました。本センターでは、本学卒業生や一般の女性を主な対象として女性のライフキャリアを支援する活動をしており、2022年に杉並区に初の女性区長が誕生し、その活躍を見聞きする中で、杉並区の子大としてぜひ区長から学生や卒業生に話をしてほしいと考えました。日頃学生と接していて、十分な能力があるのに、自信を持って一歩踏み出すのが怖いと思っている人が多いと感じます。そのような若い人をエンパワーメントするような話を伺えたら、今回の企画に至りました。

当日は、第1部に「女性の生き方と点を面にするためのアイデア」というタイトルで岸本氏のお話を伺いました。地盤のない新人、しかも女性である岸本氏がどうやって区長になられたのか、というはまさに

本学のデータサイエンス学部は、地域連携活動の一環として、プロ野球BCリーグチーム・埼玉武蔵ヒートベアーズとの盗塁パフォーマンス向上プロジェクト「塁感プロジェクト」を実施しています。盗塁に必要なと考えられる技術を構造的に分析し、データ活用した走行分析とスプリントトレーニングを併せて実践することによって、選手の盗塁パフォーマンスの向上を目指す、スポーツデータサイエンスをフルに活用したプロジェクトです。盗塁に特化した挑戦の結果、埼玉武蔵ヒートベアーズは、2021年シーズンにBCリーグの盗塁記録を大幅に更新するだけに留まらず、見事、球団創設初の地域リーグ優勝を手中に収めることができました。

トップアスリートのデータを計測し、科学的なトレーニング戦略を構築するプロセスからは、データを活用する人材に求められるスキルが学習、修得できると考えられます。課題解決のためのデータ活用方法や、データを基に他者と協働して意思決定していくための技能を学ぶ体験学習コンテンツへの応用も可能なプロジェクトとして、推進してまいりました。実際にプロジェクトに参加した学生からは、「一介の学生である私がどのようにコミュニケー

ションを取り、どのように接すれば選手たちに心を開いてもらえるか、良い関係を構築できるよう努力しました。選手たちと打ち解け、質問や不安を気軽に話せるようになった時の喜び、怪我が選手生命に影響する可能性のある中でトレーニングのプレッシャー、リーグ優勝、ドラフト会議で2名が指名された時の喜びなど、学生生活では味わえない、非常に貴重な経験をしました」(データサイエンス学部4年 津田優太郎)との声が寄せられています。

スポーツにおけるデータ活用において最も重要なことは、データの採取・分析・評価だけで終わらずに、選手やコーチと一緒に課題解決まで試行錯誤を継続することです。データを共有しながらコミュニケーションすることによって、選手の意思決定を良質なものと促進することに繋がり、個々に合わせたトレーニングプログラムを提供することができるからです。選手の可能性を信じ、潜在的な技能を引き上げるために、選手に歩み寄りながらデータを活用できる人材が必要とされていると感じます。今後もこうしたプロジェクトや地域との連携を通し、データサイエンスをさまざまな場面で活用できる人材の輩出を目指していきます。

## 03 データ活用で アスリートのもつ 力を引き出す

▶法人名 立正大学学園  
▶大学名 立正大学



上/データを根拠としたトレーニングを行う。下/回旋動作など、体の動きを数値化できるマシン。





国際学院理事長 **大野博之** × 私立大学退職金財団 常務理事 **守田芳秋**

### 岐路に立たされる短大

**守田** 貴学は実学に強いという印象ですが、かつては専修学校だったと伺いました。なぜ短大化の道を選ばれたのでしょうか。

**大野** 決断したのは父でしたが、一言で言えば、「教育の高度化」への対応です。実際に短大化してから入試は難しくなり、学習意欲の高い学生が集まるようになりました。短大の認可を受けるのは厳しかったようですが、正しい選択だったと思います。

**守田** 教育の高度化というニーズはとどまるところがなく、さらに少子化によって私学経営は厳しさを増しています。大学と専門学校に挟まれて、短大という高等教育制度が大きな岐路に立たされているとの論調も、近年目立つようになりました。

**大野** おっしゃる通りですね。実際に短大の統廃合や4年制大学への転換が相次いでいて、私たちも危機感を高めています。18歳人口に占める短大への進学

割合の推移を調べたところ、93年には12.9%で約25万人が進学していたのに、23年には3.4%で約4万人と、30年間で約22万人も減少したのです。

**守田** そうした風潮が短大の苦境につながっているとも推察されます。それに対して、短大の強みや存在意義をどのようにとらえていらっしゃいますか。

### 今こそ「強み」を発揮する

**大野** とても重い問いですね。専門学校について考えてみると、職業訓練に特化した教育機関なので、最短の期間と比較的安い学費で、就職や資格取得に必要な専門知識やスキルが学べます。しかし社会では、職能や仕事の専門知識以外にも、幅広い能力や知識が要求されます。例えば経営層になれば、経営に関する能力や知識が求められます。社会人としては、政治や経済、文化などのさまざまな動きを把握し、理解しなければなりません。コミュニケーション能力も欠かせません。そうした人間の基礎的な能力を

高め、より活躍するためには、学生時代に教養を身につけることが大切です。教養とは、「自分自身に問ひかけ、考える機能」と、私たちは定義しています。あらゆる情報を取捨選択し、正しい判断・自己決定をするのに必須の機能です。

**守田** 確かに、学生時代に学んだ教養は一生の財産になりますね。

**大野** 専門学校はスペシャリストの養成が目的なので、基本的には教養のカリキュラムがありません。教養は、独学で得るか、ほかの学校で学ぶしかないので、短大は専門学校に比べ、学位を得られる利点もありますが、私は、教養を学べる点が最大のメリットだと考えています。卒業生からは、「短大を卒業してよかった。短大で学んだ価値は社会人になって、後になればなるほど、よくわかる」といった声が多数寄せられています。

**守田** 教養を身につけるなら、4年制大学のほうが、カリキュラムは豊富ですよ。

**大野** おっしゃる通りです。けれども、4年制大学の広い教養のカリキュラムがニーズに対して過剰となる学生がいる

かもしれません。その点、短大は短期間で必要な教養を学べるので、専門教育とのバランスがいいわけですね。

**守田** ほかに長所はありますか？

**大野** 短大には「接続教育」として、4年制大学や大学院へのブリッジ機能もあります。例えば、大学教育の意義を見出せず、負担の重い受験勉強を避けたがる高校生は少なくありませんが、短大であれば、4年制大学よりも低いハードルで進学でき、「大学教育」を享受できます。短大で「学ぶことの喜び」に目覚め、学習意欲が高まれば、卒業後に「4年制大学や大学院に進みたい」という学生も増えるでしょう。本学でも3年次への進学(編入学)が可能です。編入学に必要な指導にも力を入れており、約60校から指定(校推薦)を受けていて、多くの実績があります。編入学後の学修への適応など、学ぶ意欲のある学生を応援しています。これも教育の高度化に対応する短大ならではの機能でしょう。短大の役割は、もっと見直されるべきです。

### 学生が成長するしかけ

**守田** とても説得力があるお話でした。短大の強みや存在意義を生かすため、貴学の取り組みをご教示ください。

**大野** 高等教育機関では、さまざまな価値観や考え方をを持った人間が交流し、学生が人間として成長するのをサポー

トすることが重要です。本学では「吟味思考」と訳していますが、クリティカルシンキング(批判的思考)を学生たちに獲得させることにも努めています。社会のさまざまな問題を的確に評価し、よりふさわしい解決策を見出すためです。フェイクニュースを見分けるのにも役立つ能力です。

学生自身が課題を発見、解決し、評価するチュートリアル教育も導入しました。豊かな教養を身につけるため、学内だけで教育を完結させるのではなくフィールドワークを増やし、学生に多くの体験を与えています。短大はコミュニティとの結びつきも強いので、さいたま市の産官学連携プロジェクトで「紅赤スイーツ」を開発したり、「政策提案フォーラム」に参画したりと、地域貢献活動にも力を入れています。

**守田** 貴学の2023年度の就職率は全学で96.3%と高い実績となった点についてはいかがですか。

**大野** 学びの環境を整えることが、学生の成長と評価、ひいては就職実績につながると考えて、教育のカリキュラムや施設・設備の充実を図っています。また、学生にサクセスモデルを示した上で正課外に技術教育を設けるなど、自主的に努力するしかけを用意しています。

一例として、栄養士を目指す学生でも、調理技術を追求できる履修科目を受けることはできます。保育士はピアノが必

須なのですが、本学で初めてピアノに触れた男子学生が練習にのめり込んで、ソナチネまで弾けるようになった例もあります。自分の実力を認識し、自分で「意識して」成長することができるのです。これらは成功体験により、マイナスの思い込みや刷り込みから解放するしくみです。教員も、研究意欲の高い若手を積極的に採用しています。教員を公募で採用し、学生と一緒に成長する環境を整えています。

**守田** 少子化を見据えた経営改革など、今後のビジョンもお聞かせください。

**大野** 生成AIが話題になっているように、デジタル化が進めば、“人間の教員”の役割が低下するという見方がありますが、私はそうは思いません。AIに任せることで学校運営を効率化できる部分もある一方、学生が教養や吟味思考を体得するには、教職員の支援が不可欠です。それに、4年制大学との連携教育により、単独の規模よりも幅広い学習と水準が実現できるはず。そして、子どもが減っても、高校の通信制の知見を生かすなど、新たな教育課題や社会問題への対応、企業や官庁の研修などの社会人向けの教育は、新たな事業領域になり得ると考えております。

**守田** 貴学の発展は教育ニーズの変化への柔軟な対応が、原動力とお見受けしました。本日は貴重なお話を誠にありがとうございました。

### 編集後記

今年は、当財団にとって重要な事項である第13次掛金率及び新システム機能・操作に関する説明会を、コロナ禍の時とは異なり7月から10月にかけて各地にて開催しております。

特集では当財団の新システム本稼働に即し、「デジタルとの良いお付き合い」を西多先生にお伺いしました。何気なく使っているパソコンなどが「体・脳・心」に与える影響を、改めて考えてみたいものです。取材では国際学院の大野理事長に教育への熱い思いを語っていただきました。今号も多くの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。本誌がお手元に届く頃は連日の残暑かもしれません。維持会員の皆様にお見舞い申し上げます。(も)



お時間をいただきありがとうございました。